

# 教団新報

定 価 1 部 140 円 ( 本 体 133 円 千 共 200 円 )  
予 約 購 読 料 1 年 分 千 共 5,000 円  
紙 代 の み 3,500 円  
振 替 00140-9-145275  
本 紙 を 購 読 ご 希 望 の 方 は、前 金 を  
そ へ て、お 近 く の キ リ ス ト 教 書 店  
へ お 申 し 込 み 下 さ い。  
教 会 の 購 読 料 は 負 担 金 に 含 み ま す。

発行所 日 本 基 督 教 団  
169-0051 東 京 都 新 宿 区 西 早 稲 田 2-3-18  
日 本 キ リ ス ト 教 会 館 内 電 話 03(3202)0546  
FAX 03(3207)3918  
E-mail:shimpoh-c@uccj.org  
発 行 人 竹 前 昇  
編 集 主 筆 竹 澤 知 代 志  
印 刷 所 株 式 会 社 き か ん し



弘前教会

## 信徒の日 メッセージ

### ヨハネの黙示録七章九〜一七節

## 涙をぬぐわれる神



竹内郁夫

### 死は別れである

私たちにあって、死とは愛する人との別れです。父、母、兄弟、姉妹、祖父、祖母、伯・叔父、伯・叔母、従兄弟・姉妹、恋人、友人、恩師、先輩、後輩などの死には、実に厳しいものがあります。日頃は忘れていた死が身近なものになります。ある人が、「父の死は鋭く、母の死は重い」と語りましたが、実に「愛する人の死」は鋭くて重く悲しいものです。命と愛を絆にして結ばれた人の死は、

悲しみと孤独、孤絶に満ちたものです。生きる力を奪い取っていくものが、愛する人との死別です。信仰の父アブラハムは、年が満ちて息絶え、天の民に加えられました。天寿を全うしたのですが、別れの悲しみがあつたはずで、ダビデ王は、幼い息子がいなくなつたとき、大地に横たわり、食を断ちました。別れの痛みに耐えられなかつたのです。

私たちは、この悲しみの体験から逃れることはできないのです。避けることのできない出来事です。では、死は、私たちにどうして絶望そのものでしょうか。聖書は、死を無限の虚無とは語ってはいません。死は、永遠の別れではなく、命と愛を絆にして結ばれた交わりを悲しみのもとに切り捨てることほ

ません。聖書は、必ず、再び会う望みを示しています(二テサロニケ四・一八)。この出来事から学ぶことには、何かあるのでしょうか。極めて大切な学びがあるように受け止める信仰の余りです。そのような死をどう

のように受け止めたらいよいのでしょうか。ある老婦人が自分の言葉を中心に飲みこむようにして語られました。主の日の礼拝は、いずれ、神さまのみもとに召されたとき、主イエスさまと共に神さまを礼拝するお稽古なのです」と。死を将来において、主イエスと天に召された人々と共に神さまを礼拝するための出発のときとして受け止めておられたのです。私は、まだ、若輩で、未熟でしたが、主の日の礼拝をこのように受け止める信仰の余りです。そのような死をどう

た。しかし、礼拝をこのように実に敬虔にしっかりと捉えておられたことには驚嘆の思いを禁じ得ません。主イエスさまと共に渡って行った、真に脱帽の至りです。ヨハネの黙示録七・一一のみ言葉が、彼女にしっかりと受肉して、根付いているのを見ました。また、このような老婦人

もおられました。「先生、死は私たちの最後の関所ですね。その関所を私たちは主イエスさまと共に渡って行くのですね。だから、私は、安心です」と語られました。この方は、主イエスが十字架の上で「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と

先に、死は永遠の別れではなく、その果てに再会の時があると言いました。別れを見送った人に見送られた人とは、再び出会うのです。先程、引用したテサロニケの信徒への手紙一、ヨハネの黙示録のみ言葉からうかがい知ることが出来ます。天に召された人と地上に残された人とは結ぶ絆があります。やがて、地上に残された人も天に召される時が、必ず訪れて来ます。再会の時が来るのです。

祈り叫ばれた言葉を「わたしの神よ、この苦しみの時、わたしと共にいてください」という祈りとして受け止めておられたのです。私たちが、真実に祈り願うことは、死に直面したとき、愛する人が共にいてくれることです。手をしっかりと握りしめてくれることです。神さまの平安を祈ってくださることです。愛する人が、傍らにいてくれることによって、私たちは死を平安のうちに受け入れることができますのです。平安のうちに別れていくことが出来るようになるのです。必

### 涙をぬぐわれる神

神さまは、そのようにして天に召された人々をどのようにお取り扱いになるのでしょうか。実に、大切な事柄です。聖書は、神さまのお取り扱いを次のように私たちに語ります。神が彼らの目から涙をこごとくぬぐわれるからである(黙示録七・一七)と記しています。神さまご自身が、天の故郷に帰って来た人々に近づき、膝を折って、ぬかづき、心の目に溢れる涙をぬぐい取ってくださるというのです。

神さまは、このようにして愛する人々と別れて来た人々の悲しみを和らげ、癒してくださるのです。この神さまの「グリーフ・ワーク」(悲しみを和らげ、癒す働き)によって天に召された方々は、別れの苦し

や痛みから解放されていくのです。この働きは、励ましの働きではなく、心を暖かく包む慰めの働きです。ハイデルベルク信仰問答の問いが、「生きるにも死ぬにも、あなたのただ一つの慰めは何ですか」という問いから始まるのが分かる思いがします。

私たちが信じる神さまは、実に慰めに満ちたお方です。

先に、死は永遠の別れではなく、その果てに再会の時があると言いました。別れを見送った人に見送られた人とは、再び出会うのです。先程、引用したテサロニケの信徒への手紙一、ヨハネの黙示録のみ言葉からうかがい知ることが出来ます。天に召された人と地上に残された人とは結ぶ絆があります。やがて、地上に残された人も天に召される時が、必ず訪れて来ます。再会の時が来るのです。

### 再会の望みに生きる

天の故郷にある人は、後に続く愛によって結ばれた人々の再会に望みを置きま

す。また、地上に生きる人々も、先に召された人々との再会を心に秘めて、残された人生を生きて行きます。地上の生涯を「再会の望み」

に支えられながら望みつつ生きて行くのです。再会の望みが天と地を結ぶ絆です。

時が満ちて、天に召されて、再会の時を迎えたと、神の小羊である主イエス・キリストが牧者とな

ずしも、死は不安や恐れの原因に私たちを導き、神さまと共に礼拝を献げるので

す。

## 荒野

は末期の肺癆で半年以上病床にあった。付き添う夫人が、枕もとで新聞や本を毎日読んで上げた。聖書も少しずつ読むようになった。夫人の四〇年来の願い・祈りにも拘わらず教会の門をくぐることもなかつたUさんの心が動いた。いよいよ病状が悪化した時、彼は自ら受洗を志願した。▼金曜日に問安し、事実上の試問を行った。日曜日に臨時役員会を開き、その午後には洗礼式と聖餐式を病床で執行了。翌月曜日、Uさんは御許に召された。▼葬儀では、洗礼式と同じマルタによる信仰告白の箇所を読み、病院では歌うことが許されなかつた、聖餐式の讃美歌六七番を歌った。▼Nさんは長くCS教師を務め、子供電話相談のボランティアをした人。マルコの幼児祝福の箇所を読み、三曲とも『こどもさんびか』にした。▼説教の概要は両者の場合とも、おおよそ察して貰えると思う。葬儀は故人自らの生き様が、信仰が作り上げたものだ。牧師、まして葬儀社は、それを邪魔しないように心掛ければ充分だ。



# 収入に見合った削減策を検討

## 第三回予算決算委員会

第34総会期第三回予算決算委員会が九月一九日・二〇日の両日、全国財務委員長会議の前後に教団会議室で開催された。

総幹事および財務担当幹事より当委員会に関わる事項の報告を受けた。二〇〇

四年度決算については常議員会で承認を得たが、関係者の努力で一つずつ問題が解決しつつある事が評価された。

監査については六月一五・二六の両日行われ、教団財政の健全化に伴い監査業務範囲の拡大が指向されて来ている。

二〇〇六年度の予算に関する協議では、負担金収入をまず一パーセント減として予算を立案する事を確認し、支出項目についても収入に見合った削減策を検討した。教団負担金の賦課基準については、今年度は昨年の改訂を引き継ぐ事を確認した。

今委員会の課題の一つがC表の改訂についてであつたが担当委員から詳細な説明があり、全国財務委員長会議の意見も参照し、さらに検討することになった。

二〇〇六年度の予算決算委員会では、財務委員長会議での意見を尊重しながら、今後のスケジュールに合わせ、残された課題について検討を進めていく事を確認した。

具体的には二〇〇六年度予算案については次回常議員会に予算原案を提出する方針で立案を進める事にした。

C表の改訂については、担当の山下光、鈴木務委員長が今まで寄せられた意見を踏まえ新たな改定案を次回常任委員会までに作成する事になった。

事務局と出版局との間の経理の整理については、事務局としては資産勘定(出版局勘定)を立て、出版局



負担金収入1%減で予算立案、厳しい現実に向かい合う

第34総会期第一回全国財務委員長会議が、九月二六日午後四時三〇分から二七日正午まで、教団会議室において開催された。欠席の

沖縄教区を除く各教区の財務委員長・議長および総幹事・財務幹事・予決委員が出席した。

今回から統一した報告様式により、教会伝道所数・現住陪餐会員数推移、前年度教区財務委員会報告・経常会計決算、今年度経常会計予算、教区内教会・伝道

所の支援・互助制度、教区で取組んでいる財務に関する問題・課題、全国財務委員長会議への提言・意見、各教区とも厳しい教勢の中でやり繰りをしている。話し合いに入り、①教区ごとに会計基準・処理がまちまちであり統一化の必要性はないか、教区の自主性との関連、教団による教区の実態把握について、②教職謝儀基準・保障(互助)の取扱いで教区ごとの差異

をどう考えていくか、③教団年金問題への取り組み、④全国財務委員長会議の持ち方、などについて活発な意見交換がなされた。

二〇〇六年度は、教団財務状況報告、年金局・出版局の二〇〇四年度決算概要報告に続いて、二〇〇六年度事務局予算素案の説明があつた。

収入を先に検討し、教区負担金は総額で前年度比一〇%減、出版局・他会計繰入金ゼロなどによる縮小予算案が提出された。

収入を先に検討し、教区負担金は総額で前年度比一〇%減、出版局・他会計繰入金ゼロなどによる縮小予算案が提出された。

収入を先に検討し、教区負担金は総額で前年度比一〇%減、出版局・他会計繰入金ゼロなどによる縮小予算案が提出された。

去る九月六日から八日、長崎県佐世保市のハウステンボスを会場にして第三回信徒の友セミナーが開催された。これまで関西以西で行われた九州直撃となり、参加者、内容とも大きな影響を受けることとなった。

今回のテーマには「信仰の原点に立つ」を掲げた。クリシタンの信仰の歴史に触れながら、今一度現在の私たちの信仰を顧み、新たな福音

の力にあずかることを願って、講師として皆川達夫氏、森禮子氏、小島誠志牧師、今橋朗牧師に依頼し、さらに地元から福井博文牧師と末瀬昌和牧師にも協力をいただくことになった。

まず森氏は、長年取り組んできたクリシタンの歴史調査から、当時の歴史の全体像と特に日本人として初穂となった人々について講演した。

の歴史と信仰に触れながら、楽しい賛美の時、祈りの時を過ごした。

最終日には小島牧師によって、アブラハムの信仰から弱さを抱えている人間こそ、恵みによって信仰生活に導かれていることを改めて教えられた。最後に、氏のハートフル演奏を聴く幸いも得た。

台風の直撃を受け、三〇名ほどがやむなくキャンセルとなったが、地元の人々も歌った典礼歌

の歴史と信仰に触れながら、楽しい賛美の時、祈りの時を過ごした。

最終日には小島牧師によって、アブラハムの信仰から弱さを抱えている人間こそ、恵みによって信仰生活に導かれていることを改めて教えられた。最後に、氏のハートフル演奏を聴く幸いも得た。

台風の直撃を受け、三〇名ほどがやむなくキャンセルとなったが、地元の人々も歌った典礼歌

# 「信仰の原点に立つ」をテーマに

## 信徒の友セミナー

二〇〇六年度は、教団財務状況報告、年金局・出版局の二〇〇四年度決算概要報告に続いて、二〇〇六年度事務局予算素案の説明があつた。

収入を先に検討し、教区負担金は総額で前年度比一〇%減、出版局・他会計繰入金ゼロなどによる縮小予算案が提出された。

収入を先に検討し、教区負担金は総額で前年度比一〇%減、出版局・他会計繰入金ゼロなどによる縮小予算案が提出された。

収入を先に検討し、教区負担金は総額で前年度比一〇%減、出版局・他会計繰入金ゼロなどによる縮小予算案が提出された。

収入を先に検討し、教区負担金は総額で前年度比一〇%減、出版局・他会計繰入金ゼロなどによる縮小予算案が提出された。

収入を先に検討し、教区負担金は総額で前年度比一〇%減、出版局・他会計繰入金ゼロなどによる縮小予算案が提出された。

収入を先に検討し、教区負担金は総額で前年度比一〇%減、出版局・他会計繰入金ゼロなどによる縮小予算案が提出された。

収入を先に検討し、教区負担金は総額で前年度比一〇%減、出版局・他会計繰入金ゼロなどによる縮小予算案が提出された。

収入を先に検討し、教区負担金は総額で前年度比一〇%減、出版局・他会計繰入金ゼロなどによる縮小予算案が提出された。

収入を先に検討し、教区負担金は総額で前年度比一〇%減、出版局・他会計繰入金ゼロなどによる縮小予算案が提出された。



外海地方のバスツアーへ

今回のテーマには「信仰の原点に立つ」を掲げた。クリシタンの信仰の歴史に触れながら、今一度現在の私たちの信仰を顧み、新たな福音

の歴史と信仰に触れながら、楽しい賛美の時、祈りの時を過ごした。

最終日には小島牧師によって、アブラハムの信仰から弱さを抱えている人間こそ、恵みによって信仰生活に導かれていることを改めて教えられた。最後に、氏のハートフル演奏を聴く幸いも得た。

台風の直撃を受け、三〇名ほどがやむなくキャンセルとなったが、地元の人々も歌った典礼歌

の歴史と信仰に触れながら、楽しい賛美の時、祈りの時を過ごした。

最終日には小島牧師によって、アブラハムの信仰から弱さを抱えている人間こそ、恵みによって信仰生活に導かれていることを改めて教えられた。最後に、氏のハートフル演奏を聴く幸いも得た。

台風の直撃を受け、三〇名ほどがやむなくキャンセルとなったが、地元の人々も歌った典礼歌

の歴史と信仰に触れながら、楽しい賛美の時、祈りの時を過ごした。

最終日には小島牧師によって、アブラハムの信仰から弱さを抱えている人間こそ、恵みによって信仰生活に導かれていることを改めて教えられた。最後に、氏のハートフル演奏を聴く幸いも得た。

台風の直撃を受け、三〇名ほどがやむなくキャンセルとなったが、地元の人々も歌った典礼歌



閉会礼拝で平和の挨拶を交わす

# 06年度拠出・配分額協議

## 教区活動連帯金配分協議会

去る九月二〇日(火)一三時三〇分より一六時まで、全国各教区議長及び財務委員長、その他関係者が集められて、二〇〇五年の教区活動連帯金配分協議会が開催された。開会祈

祷と挨拶の後、本協議会の議長と書記を選出して議事に入った。

まず昨年九月二七日に開催された配分協議会の議事録が、一部語句を挿入・修正の上承認された。続いて上記協議会以降に開催された配分協議会の協議事項が報告され、承認を受けた。特に



沖縄を除く各教区の財務委員長・議長が集う

となり、一層の支出節減に努めていくこととなる。

各教区への負担金配賦は昨年の委員長会議で示された計算基準で算定される。

続いて「年度報告C表改定案」について予決委員から説明があつた。

これは各教会から提出されるC表の記載が統一されていないと、教区負担金算定に当たって公平性を欠くことになることから、より明確化を図るもので、特別

他援助の分離、教師謝儀は援助による金額の明記、対外献金の取扱い等である。また、予備費からの支出

は、決算書上では各該当支出科目にふり分けて記載すべきとの意見が出された。(鈴木務報)

事が要望された。また〇七年度も、この修正された計算方法で配分額を決定する事が承認された。

続いて各教区より、〇六年度配分額についての意見・要望が述べられた。これを十分に取り入れた形で、

配分検討委員会に配分額決定を委ねる事が承認された。

協議事項の第四として、会計監査委員会からの本協議会についての要望事項が扱われ、何らかの形で教区活動連帯金の報告が常議員会にされるべき事について、概ね賛同を得た。

最後に、〇五年度配分検討委員の選出がなされ、抽選の結果、拠出側より、西

東京教区(招集者)と神奈川教区、受入側より四国教区と九州教区の各議長が委員を務める事となった。

終始和やかな雰囲気の中、閉会祈禱をもって閉じ

た。(福島純雄報)



キリスト教 認定試験について協議

第三回教育委員会

第三回教育委員会は一〇月三、四日に教団会議室で委員七名の出席で行われた。主な協議と報告事項。

①キリスト教教育主事の件 ④第四五回「キリスト



クリスマス献金先決定。目標額は 1,200 万円

「認定試験受験を希望する方が存在する現実をふまえて協議し、今後検討する必要があることを確認した。」③「キリスト教教育主事」リーフレット発行について、イラストとレイアウトをお願いしている石橋えり子氏に添席していただき、新しいリーフレットの説明を受けた。

(2)クリスマスに関する件 ①二〇〇四年度全国教会学校クリスマス献金報告 ペ

シャール会、カリヨン子どもセンターへは九月に贈呈、アイヌ奨学金はクリスマスまでに贈呈することになっている。②二〇〇五年度全国教会学校クリスマス献金 献金先として、「新潟県中越地震・被災教会堂等再建支援委員会、スマトラ島沖地震の被災者を

えて ACT (Action by Churches Together

本部スイス・アイヌ奨学金キリスト教協力会、以上の三カ所に決定。献金目標は、一、二〇〇万円。前回委員会では、二〇〇万円。スマトラ島沖地震の被災者のための施設が決定され、担当

台湾基督長老教会との協議会開催

第三回世界宣教協力委員会

第34総会期第三回世界宣教協力委員会が去る一〇月三日(月)午前十一時より午後五時まで教団会議室において開かれた。

今回前半は十数件に及ぶ報告事項を聞き、必要な事項に関しては協議をし、後半は九件の議事を取扱うなど、実に多くの案件が提出された。

世界の各地に派遣されている宣教師の方々、及びそのご家族、また現地の集会

者が適切なルートを探した結果、世界各地での緊急支援のための活動を行っている ACT を通じて献金すること

が適当であると判断した。ACT は、WCC (世界教会協議会) と LWF (ルーテル世界連盟) によって作られた組織で日本基督教

その他の働きに対する配慮、さらには受入れ先の教会や諸機関との交流、交渉等々、この委員会が負わ

れている責任がいかに多様で重大であるかということの表れであろう。

ここではごくかいつまんで報告させて頂きたい。まずは協議会のお知らせ

えられるように願いつつ進めてゆきたい。その他「教師の友」が発行予定の聖句カードについて派遣委員より報告を聞き、教会教育プログラムを作成している教育委員会としての費用負担について話し合いを行っ

た。この協議会は当委員会の下におかれている台湾協約委員会が具体的な準備を進めている。

次は各宣教師に関する報告である。

ケルン・ボン日本語教会では来年三月末で任期満了の小栗献宣教師の後任者を求めている。現在公募中である。五年任期でドイツ語を話せる人という条件が付いている。希望する人がいたらぜひ応募して頂きたい。

中国の華中師範大学に派遣されている加藤実宣教師がこの度「この事実を……」②「南京」難民に仕えた宣教師証言集」を日本語に翻訳出版された。

いわゆる南京大虐殺に関する貴重な証言を集めたもので多くの人に読んでもらいたい。しかし日本の販売ルートには乗らないので対策を考慮中である。希望者は同師の支援会に申し込んで頂きたい。

台湾の高雄日本語教会附属高雄めぐみ園に、信徒宣教師として高久華子氏を派遣することを決定した。一〇月二〇日に平塚教会で宣教師派遣式が行われることになった。

この他 C.O.C 組織検討等の重要な議題も協議されたが次の機会にゆずりたい。(木下宣世報)

新しい式文の試用版出版へ

第三回信仰職制委員会



教師検定委員会の諮問について協議

第34総会期第三回信仰職制委員会が、九月十五日(木)一六日(金)、教団B会議室で開催された。

一、教団出版局より、教団教会暦・行事について、過去に作成された文章を検討してほしいとの問い合わせがあった。「降誕日、受難日、復活日、聖霊降臨日、宗教改革記念日」等の教会暦、「信教の自由を守る日、神学校日、伝道献身者奨励日」等の行事の由来と内容について、文章を整えた。二、式文改定小委員会よ

り、主日礼拝式案が提示され、新しい式文の作成の形態について趣旨説明がなされた。(a)牧師のみならず信徒も持つことの出来る礼拝書とする。(b)使用の利便性を考え、分冊で出版する。

(c)信仰職制委員会編として、まず試用版を出版し、広く意見を求め、さらに内容を検討する。

三、教師検定委員会より、補教師である宣教師の正教師受験に関して次のような諮問があった。現在日本基督教団の補教師であって、宣教師として海外に派遣されている者が日本基督教団

正教師受験する場合の取り扱いに関して、教師検定規則第八条及び第十一条をどう

のよう処理することが出来るか。以下、答申の要約。か、宣教師として派遣される教師を原則として正教師とするなどの処置を要する。(井ノ川勝報)



多様で重大な案件に取り組む

消息

松澤 初氏(隠退教師)



九月一三日、逝去。八四歳。静岡県に生まれる。一九四三年日本西部神学校(現関西学院大学神学部)卒業。四六年、相良教会に赴任。その後、四九年から六九年まで嶋田教会牧師を務め、二〇〇〇年隠退した。遺族は妻のよさん。

訂正 四五八九号三面、消息欄、小室 烈氏の遺族、「岩崎谷子氏」をお詫びして、訂正いたします。

兵 庫 自らを問いかえしつ

小林 聖

阪神・淡路大地震から一〇年の今年、兵庫教区は教区総会において四つの「決意(意見)表明」を採択した(『合同のとらえなおし』)に関して「災害と向かい合う宣教」に関して「セクシュアル・ハラスメント控訴審判決を受けて「いのちを脅かすものに対する働きに関して」。一つ一つの表明について語るだけの紙面スペースはないが、そこに共通して流れているのは「私自身のありようを問

教区 コラム

う」という姿勢である。私たちはともすれば「問題」という形で課題を対象化してしまいがちだが、種々の課題を前にして問われているのは常に「自分自身」である。私はどのように生きるのか(あるいは、生きていくのか)が問われているのであり、そのような自分自身との向かい合いがない中で何らかの課題を自らのものとして担っていくことはできないであらう。あえて例をあげるとすれば「合同のとらえなおし」は「ヤ

(兵庫教区総会副議長)



# 伝道のともしび

## 浅草に生きる

浅草教会牧師 小島 仰太

好き」の一言に尽きる。この浅草の「三社祭」は全国的にもよく知られ、盛大に行われるが、ここでは、その他々と何かしらの祭りをやっている。

この町で生活を始めてから一年半が過ぎた。浅草教会は、今年の八月で百十九周年を迎えた。教会周辺は、神社は言うまでもなく、寺院も多く立ち並ぶ。教会のある芝崎東町会(旧町名)には、教会の他に神社と寺院が二つある。…ま、色々な考えの人たちがいるから…町の人は皆飾りっ気なく、暖かい人たちがばかりだ。中には、

「トケケンツクテテツクテン♪」祭囃子の賑やかな音、そして、足袋に町ごとの揃いの半纏を「粋」に着こなした神輿の「担ぎ手」の声が、「せいやっ！せいやっ！」「おいさーおいさー」と町のあちこちで響き渡る。神輿と担ぎ手がじッと一つとなる。その姿、雰囲気は、活字で表現できるものではない。毎年五月、年に一度の「三社祭」で、「浅草っ子」は燃える。「俺たちは三社(祭)のために生きてんだ！」と堂々と言っている。その威勢のよさに、ただただ圧倒されてしまう。「祭り

田川花火大会」の警備員をやった。

この地で、新会堂を与えられ、二月で丸二年になる。浅草教会は今、地域に仕える教会、「すべての人々に開かれた教会」としての歩みを模索し始めている。会堂が完成した時は、献堂式より先に、町の方や小百合幼稚園関係者のために、「新会堂お披露



今年2月の餅つき会。はちまきが筆者

興を担がなくてもいいから、とにかく来るだけ来て！」と声をかけられる。冬、クリスマスが終わり、年末になると「夜回り」がある。拍子木を打ち、拡声器で「火の用心！」と叫びながら町内を回る。詰め所となる町のお宮には、「ぼくしさま」と書かれた紙コップが用意されている。この夏は、地元民として「隅

浅草の祭りは、「宗教」というよりはむしろ「文化」という人もある。どっちにしても、ここ浅草では、それが確実に継承されている。そこから学ぶことは非常に多い。

教会も、毎日曜日にイエス・キリストの復活を祝う「祭り」を行っている。その信仰を、この地でしっかりと継承していかなければならない。キリストを「粋」に着こなし、自分自身の十字架を担い

一九九六年に廃園になった教会付属の「小百合幼稚園」の卒園生も多い。「私は幼稚園の頃、クリスマスに教会で劇やったよ」という人、終戦後、焼失した教会の跡地で遊んだ事を話してくれる人もいる。皆が浅草教会と小百合幼稚園のことをよく知っている。

一年半前、私は「今度来た牧師さん」と呼ばれた。しばらくすると、町の人たちから色々と言を掛けられるようになった。雨が降らない限り、毎日近所の人たちとお寺の前の道路に集まってラジオ体操をしている。「三社祭」の日は近くなると、お囃子の練習に呼ばれる。町は早々と「お祭の騒ぎ」となる。

祭りの当日には「先生、(御輿を)担がなくてもいいから、とにかく来るだけ来て！」と声をかけられる。冬、クリスマスが終わり、年末になると「夜回り」がある。拍子木を打ち、拡声器で「火の用心！」と叫びながら町内を回る。詰め所となる町のお宮には、「ぼくしさま」と書かれた紙コップが用意されている。この夏は、地元民として「隅

北川晋さんの死刑執行に対する抗議声明

内閣総理大臣小泉純一郎殿  
法務大臣 南野知恵子殿

この度、北川晋さんに対する死刑が執行されたことは誠に遺憾であり、強く抗議致します。

9月16日の死刑執行については、衆議院選挙後の国会閉会中を選んで、本人や家族にも予告無しに突然行われたと聞いています。

人命を損なう非人道的行為は、犯罪によるのはもちろん、たとひ法の執行によるといえども、許されるべきものではありません。犯罪による被害者やそのご家族のやり場のない深い悲しみや怒りまた恐怖に、心から同情し、共感いたします。

それ故にこそ、加害者の命を死刑によって奪うことでは、真の解決にはならず、真の慰めを得ることにはならないことを、この度の死刑執行に際し、改めて訴えます。

私たち日本基督教団は、1982年第22回総会において、日本国家による死刑執行の中止を求める声明を採択し、死刑制度の廃止を求める運動を続けてまいりました。死刑が執行される都度、抗議声明を出し、また、死刑が執行されないように要請してまいりました。

現在、死刑廃止国は年々増加し、事実上行っていない国を含め120カ国に及び、死刑存置国76を遙かに上回っています。日本はこの60年間人命を何より尊んできた国であったはずであ

ありますが、今やその少数の国の一つになっています。どのような人でも、その人命が尊重され、一人一人の人權が守られる社会を作ることが、明日の日本を形成する希望となります。そのような社会を作ることこそ、政府のなすべき急務であると考えます。死刑を停止し、誰もが互いの存在を心から尊重しあえる社会の実現に、より一層の努力を傾注されますよう、政府に期待してやみません。

2005年9月20日  
日本基督教団社会委員会  
委員長 小出 望

**広告**

**主任担任教師 公募のご案内**

この度、当教会の主任担任教師の辞任に伴い公募による招聘を行います。左記の要領にてご応募下さる様にご案内申し上げます。

一年齢六十歳位迄の既婚者(附属幼稚園あり、園長資格のある方が望ましい)

二 提出書類は履歴書「宣教・牧会について」の基本的考え(原稿一枚以上及び推薦状

三 選考方法は書類選考の上、面談による。

四 申し出締め切りは、本年十一月三十日。

◎書類送付及びお問い合わせ先

〒一五三〇〇六三 目黒区目黒三三四一五 日本基督教団中目黒教会主任担任教師代務者・早川宗八郎  
電話〇三三三七一三〇四一  
七二〇FAX一四八二二〇  
E-mail nakame6@aol.itc.com.net

※お問い合わせは、主任担任教師代務者・早川宗八郎まで

### ひととき

平井 章さん

旗印を鮮明に、堂々と、元気に



日本キリスト教社会事業同盟 総幹事。遠州栄光教会員。

「夕暮れになっても、光がある」(セガリヤ書一四章七節)。

浜松市郊外、三方原にある社会福祉法人「十字の園」(一九六〇年設立)を訪ねると、この聖句が迎えてくれる。浜松ディアコニッセ母の家に属するハニ・ウォルフ姉妹が長谷川保の協力を得て開設した「十字の園老人ホーム」が始まりである。

初代理事長の鈴木生二は信仰と人格的感化によって事業をよく指導した。現在は、浜松、御殿場、伊豆高原、松崎で養護老人ホームや軽費老人ホーム、デイサービスセンターや訪問看護ステーションなどを運営している。

平井章さんは四代目の理事長(一九九九年)である。一九四七年生まれ。二七歳の時、御殿場十字の園を会場に行われた東海教区主催ポランティア・スクールに出席、それがきっかけとなって修善寺教会で受洗、勤務していた楽器会社を退職して十字の園に献身することとなった。

二バーの祈り「神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。変えることのできないものについては、それを受けいれるだけの冷静さを与えたまえ。そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵を与えたまえ」が座右の言葉である。

時代を精察し、その変化と要請に対して果敢に臨んでいくと共に、無くてならないものを豊かに受け継いでいきたいと願っている。また、良きクリスチャン・ワーカーの先輩たちに出会えたことを感謝すると共に、継承者の育成に心を注いでいる。

日本キリスト教社会事業同盟は今年の総会で「将来構想」を採択。平井さんはその作成に深く関わった。措置から契約へと社会福祉施策が変わって、キリスト教社会福祉の存在意味を新たに受けとめている。新総幹事は「旗印を鮮明にして、堂々と元気に」と笑顔で語った。

「お世話になりました」と言い、九〇歳になる教会員が挨拶をされた。その日の礼拝を最後にシニアハウスに入ると言う。高齢の教会員が多くなり、礼拝出席がままならぬ状況になる。最近、Aさんを見かけませんね」と教会員が消息を話し合っている。足腰が弱くなったとか、老人ホームに入居したとか、寝たきりになったとか、現実を受け止めるを得ない。思うことは、礼拝に出席できなくなってしまった皆さんは、それまでは教会を支え担ってきたのである。今、高齢になって礼拝には出席できな

きない。「最近、お見えになりませんね」と言うとしたら、悲しい現実である。願うことは、高齢とも一日生かされて感謝」と日記には必ず記すのであった。その姉を常に教会の皆さんが訪ねてくれた。寝たきりの状況にありながらも信仰に生きる喜びを与えられていた。

「お別れではありません。老人ホームに入っても教会員なんですよ。皆さんがお訪ねして、賛美のお交わりがありますから」と言いつつお送りしたのであった。

(教団総会書記 鈴木伸治)